

## 世界の天然ガス需給の今後5年を予測

### ◆米国産シェールガスが今後5年、天然ガス世界市場を変えていく

IEA（国際エネルギー機関）は2017年7月、世界の天然ガス市場の最新動向と今後5年を予測した「GAS2017」を公表した。

世界の液化天然ガス（LNG）の供給力は、16年に豪州や米国の新規LNG基地が稼働し上昇している。特に米国では地下数千メートルからのシェールガス採掘の技術向上によりLNGが安価に生産できるようになり、16年2月にブラジル向けに国外初出荷が認められ、16年12月には日本向けにも出荷された。「GAS2017」は、米国はLNG供給国に転じ、世界のLNG生産量の伸び要因のうち、40%が米国産LNGになると分析している。また、5年後の22年にはLNG輸出の世界最大国はカタール、豪州、米国で競い合うことになると予測している。

世界のLNG需要は、中国、エジプト、インド等新興国の発電用燃料の需要増により、世界で増加基調にある。22年まで世界のLNGの需要は平均年率1.6%で伸び、消費量は22年に約29.2億トン/年に達する。また、世界のLNG需要用途の変化として、最も多い利用用途が発電需要から、石油化学や肥料原料用など産業部門になると予測している。なお、世界のLNG需要量は22年に先進国から途上国中心に変わり、世界LNGの需要伸びの要因の90%以上が途上国で、中国は年率9%で増えるとした。

### ◆LNG利用最大国の日本は世界の天然ガス市場変化を注視すべき

米国国内の発電用エネルギー源は16年に天然ガスが30%を占め最大になり、石炭発電を抜いている。天然ガス発電のほうが石炭発電に比しトータルコストが安いという理由によるが、これにより、米国は最近2年間で天然ガス拡大と再生可能エネルギー拡大によりCO<sub>2</sub>排出量24%の削減になったとされる。シェールガス革命は米政権の消極的な環境政策を囮らずも後押ししている。

また、日本はしばらく世界最大のLNG輸入国でありつづける。日本は今後、中国など世界のLNG需要量や需要用途の変化を確認しつつ、シェール由来のLNGを含む世界LNG市場の最適活用を考えることが重要になるだろう。 【新井喜博】